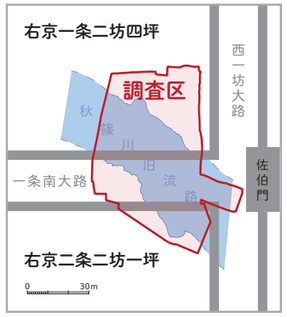
平城京右京 一条二坊四坪 二条二坊一坪 一条南大路

2014.4.14 ー2015.2.18(530次)

大溝を埋め立てるための敷葉・敷粗朶工法。大きく３層に分かれ、上層と下層は枝（粗朶）を、中層は葉を主体とし、念入りに埋め立てられていました。

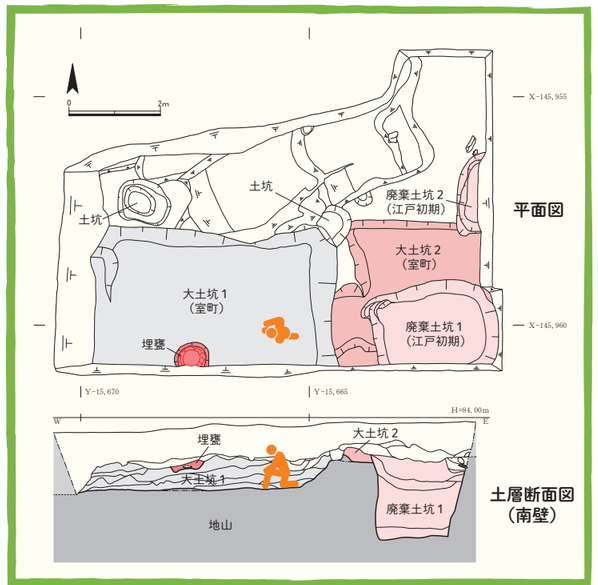


奈良文化財研究所本庁舎の建替事業に伴っておこなわれた調査です。調査区の大部分に秋篠川旧流路が存在すること、平城京の造営時に旧流路を踏襲して大溝が整備されたこと、大溝は最終的に敷葉・敷粗朶工法によって埋め立てられたことなどがあきらかになりました。

興福寺旧境内

2014.9.16 ー10.2(539次)

現在の近鉄奈良駅東向商店街の入口で、ビル改築に伴っておこなわれた調査です。『興福寺流記』という古記録によると、奈良時代には興福寺境内の果薗・園地があったとされる一帯に位置します。



図解 発掘調査でみつかったのは、中世から近世にかけての遺構でした。生活用品が数多く廃棄された「ゴミ穴」（廃棄土坑）の発見により、中世～近世の興福寺旧境内での暮らしの一端があきらかになりました。

平城京の造営に関わる大溝を発見！

本調査区では、奈良時代の遺構として、平城宮の佐伯門（西面中央の門）から西に伸びる一条南大路がみつかりました。路面は削られていましたが、路床と道路側溝が残っていました。

平城京の造営時に大溝を埋め立てた敷葉・敷粗朶のうち、上層とその上に盛り上げられた黒色砂質土は、一条南大路の路床部分に限られることもわかりました。後に路面になる部分の地盤をしっかりと固めるための工事だったのでしょうか。

赤線は道路の側溝で、道路幅は70大尺(約25m)におよびます。写真奥が平城宮で、西から撮影。

大溝を埋め立てた敷葉・敷粗朶の最終工程層（黒色砂質土）の中から、70点近くに及ぶ斎串が集中する遺構がみつかりました（左写真★の地点）。形も長さもバラエティーに富んでいます。一条南大路を造成する直前の、溝の埋め立て工事の過程で何らかの祭祀がおこなわれたと考えられます。

江戸時代のゴミ捨て穴から生活用品が数多く出土！

下駄

廃棄土坑１から、９点みつかりました。いずれも台と歯を一木で作り出すタイプです。中には「×」が刻まれたものもあり、個人の所有物であることを示すための印と考えられます。

漆器

廃棄土坑１・２から、破片が合わせて 30 点以上出土しました。中には、外面を黒漆で塗った上に、赤漆で文様を描いたものや、外面と内面を黒と赤で塗り分けたものなどがありました。

ウナギの骨！？

廃棄土坑１から、ウナギ属の腹椎が１点出土しました。骨は焼けていて白色化していたのですが、江戸時代の当地の住人はウナギの丸焼でも食べていたのでしょうか？

「興福寺」銘瓦

大土坑１の埋土には、大量の瓦が含まれていました。これらは「興福寺」という文字が瓦当面に表出された軒瓦で、鎌倉～室町時代のものです。当調査区が確かに興福寺の境内であったことを示す遺物といえます。

数々の器

廃棄土坑１・２からは、美濃焼・唐津焼・備前焼・信楽焼に加えて中国製の磁器など、様々な産地の土器・陶磁器が多量に出土しました。日常の食器以外に、茶道具の茶入や中国製の観音立像といった、ちょっと目を見張るようなものまで含まれています。

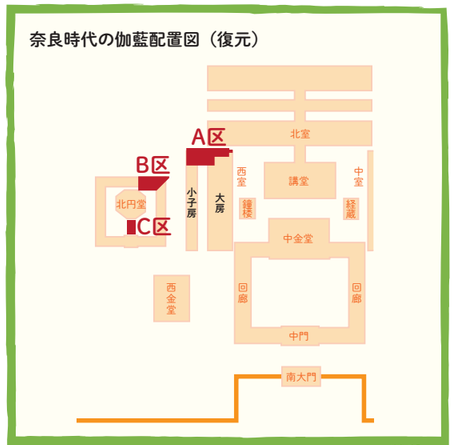
興福寺 西室 北円堂院

2014.9.29 ― 2015.1.16(540次)

興福寺では、これまでに「興福寺境内整備基本構想」に基づく寺観の復元・整備事業にともなって、中金堂院、南大門、北円堂院などの発掘調査がおこなわれてきました。今回は、西室（西僧坊）の建物規模を明確にすることと、北円堂院未調査地の様相を把握することを目的として A～C 区の調査区を設けました。

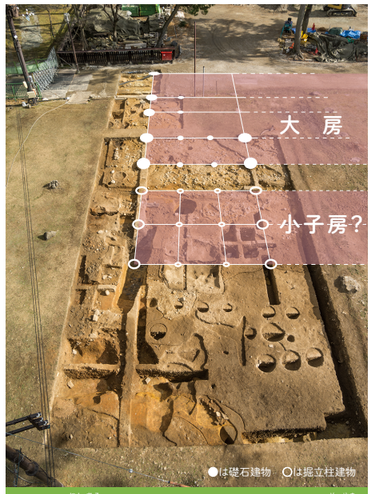
西室の規模は研究者によって復元案が異なり、明確ではありませんでしたが、2013年度におこなった西室南半分の発掘調査成果とあわせることで、西室大房の建物・基壇規模をあきらかにすることができました。

北円堂院については、北面回廊の創建時のものとみられる遺構を検出し、基壇の造成方法に関わる知見を得ることができました。また、南面内庭部では、灯籠の基礎を据え付けた痕跡を確認しました。



図解 興福寺では、僧の生活空間である僧坊が中室・北室・西室の３つに分かれ、西室は大房と小子房という大小の建物からなります。北円堂院とは、北円堂とそれを取り囲む回廊も含めた空間全体を指します。

創建時の姿の解明へ一歩ずつ…



現れた西室の北端部分。奥の西室大房は礎石建物で、親柱の桁行１間分を確認しました。手前の掘立柱建物は、小子房推定位置よりも大房に近接しすぎているため、小子房ではない可能性も残ります。A 区を西から撮影。

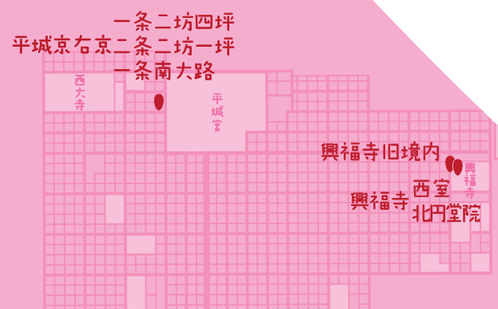
調査区内の各所で、土師器の皿を大量に含む穴（土坑）がみつかりました。穴によって時期が異なり、平安～江戸時代におよびます。儀式などで用いられた後にまとめて投棄する行為が、時代を超えて連綿と続いていたのでしょう。

発行日・2016 年 2 月 13 日 ／ 企画編集・奈良文化財研究所 展示企画室 ／ デザイン・澤村真理子 ／ 印刷・能登印刷株式会社

平城宮跡資料館ミニ展示

発掘速報展 平城2015

第Ⅱ期で展示する調査地点



第Ⅰ期

2015. 12/5 (土) ▶ 2016. 1/31 (日)

第Ⅱ期

2016. 2/13 (土) ▶ 2016. 3/31 (木)

入場無料・月曜休館

（月曜が祝日の場合は翌平日休館・12/28(月)～1/4(月)の間は休館）

時間：9時～16時半 ※入館は16時まで

場所：平城宮跡資料館 企画展示室

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 平城宮跡資料館
http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/ お問い合わせ：TEL 0742-30-6753（連携推進課）